

表 第1回協議会の指摘事項と改定計画における反映内容

発言者	第1回協議会指摘事項	指摘事項への対応に関する改定計画での反映内容
1 藤田委員 尾花委員	高齢化が進み、山林でも荒廃が進んでいる。 森林の保水力が低下しないよう 、林業でも、計画的に予算を組み事業をすすめてもらいたい。	「5-6. 森林の整備及び保全」において、森林環境税及び森林環境譲与税にかかる 施策を追加する 。
2 藤田会長	DX の進展への対応にはモニタリングが含まれると考えられる。 モニタリングは非常に重要 と考えている。	「6-3. 浸水による被害の発生に係る情報の伝達」において、河川監視カメラから流量を観測する国土交通省の取組を注視することや 技術の導入について検討すること を追加する。
3 小田委員	生野ダム下流の市川は、 土砂が堆積 して放流によって危険な状態になることがあるので、対応をお願いしたい。	「4-1. 河川の整備及び維持」において、堆積土砂の撤去を含む 適切な維持管理を継続すること を追加する。
4 藤田会長	最近目にする「 フロードガード 」という軽量の防水パネルは浸水時に玄関前とかにざっと並べるだけで最大で 80センチくらいの水深まで浸水に耐えられる。 ”土のう”ではなくて” 水のう ”という対策があることを知った。普通のポリ袋に水を入れたもので、例えばトイレとか下水管から逆流しそうなときにパッと置いて蓋すると逆流を防げるらしい。こういった情報も非常に大事だと思うので、このような知恵も参考にしていだければと思う。	「6-4. 浸水による被害の軽減の学習」において、 各家庭でも実施できる浸水対策に関する紹介 を追加する。
5 藤田会長	洪水時、水深が 30センチぐらいで流速が 1~2メートルぐらいになると歩けない。今後 DX の進展に伴い細かなシミュレーションができれば、ハザードマップに、水深と流速によって避難できない情報も入れられればと思っている。また、地元の人しかわからないような 危険な箇所が避難路にあれば、それをハザードマップに反映 していくなどの発展を期待する。	「6-4. 浸水による被害の軽減に関する学習」において、浸水深に加えて流速も考慮した リスク情報の提供について国の動向に注視 することや、地区ごとの防災マップの作成推進やより安全な避難経路情報の追加などの 防災マップの充実 に取組むことを追加する。